

# 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針

【案】

[平成31年度～平成37年度]

平成28年 月 日

鳥取県教育委員会

## はじめに

県教育委員会では、平成31年度から平成37年度までの県立高等学校の在り方について、鳥取県教育審議会の答申に基づき、関係部局や学校との意見交換、パブリックコメントでの意見聴取等を実施しながら検討を進めてきた。

平成31年度以降も中学校卒業生数の減少が見込まれており、学科やコース等の改編等を含めた学校の再編成を行うことも視野に入れながら学校の在り方を検討していく必要があること、また、近年の高度情報化や国際化を背景に産業構造・就業構造の変化も加速してきており、グローバル社会への対応や地方創生に貢献できる幅広い知識や柔軟な思考力及び創造性を持った人材を育成することが求められている。これらを踏まえ、

- 1 時代や社会の変化に柔軟に対応できる高等学校教育の推進
- 2 今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

の2点を中心に、県立高等学校の在り方に関する基本方針を作成したところである。

この基本方針は、平成31年度から平成37年度までの本県高等学校教育における基本的な考え方や施策展開の方向性を示したものであり、今後は本方針をもとに、関係者等の意見を聞きながら、施策を具体化・明確化し、その実現に向けて努めていく。

また、本方針の計画期間は平成31年度から平成37年度までとしているが、近年の教育改革の動向や変化の激しい社会情勢を注視し、平成31年度以降を見据えて、計画期間前から具体的施策の推進に努める（第2章の4（1）及び（2）を除く。）とともに、計画期間中であっても見直しを行うなど柔軟な対応を行い、魅力と活力ある学校づくりを推進していくこととする。

平成28年 月

鳥取県教育委員会

# 4 標準的な学校の規模と配置

## (1) 標準的な学校の規模

### <背景>

前述したとおり、全国的に学校の小規模化が進んでいる中、本県でも県立全日制高等学校における1校当たりの平均募集学級数（第1学年の学級数）は、平成17年度から平成27年度の約10年の間におよそ1学級分小さくなっている。また、1学年当たり3学級以下の小規模な学校（以下「小規模校」という。）も、平成17年度（1校）と平成27年度（6校）を比較した場合、5校増加している（図6、図7参照）。

(図6) 県立全日制高等学校募集学級規模別一覧（平成17年度と平成27年度の比較）

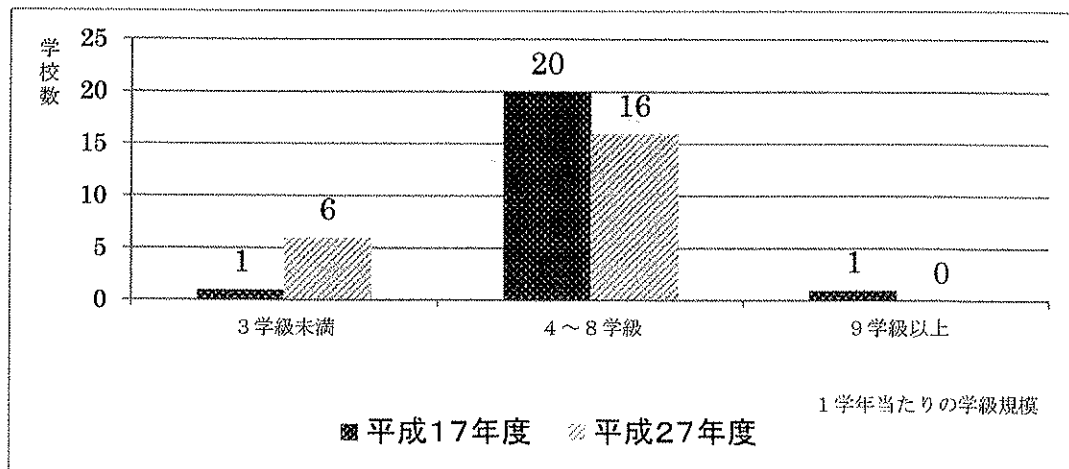
《平成17年度》					《平成27年度》				
学級数(※)	東部地区	中部地区	西部地区	学校数(割合)	学級数(※)	東部地区	中部地区	西部地区	学校数(割合)
2学級				0校(0.0%)				日野(総合)	1校(4.5%)
3学級			日野(総合)	1校(4.5%)	岩美(普通) 智頭農林(専門) 青谷(総合)	倉吉西(普通) 倉吉農業(専門)			5校(22.7%)
4学級	岩美(普通) 智頭農林(専門) 青谷(総合)	倉吉農業(専門)	米子(総合)	5校(22.7%)			鳥取中央青英(普通)	米子南(専門) 米子(総合)	3校(13.6%)
5学級		倉吉西(普通) 鳥取中央青英(普通)	米子南(専門) 米子工業(専門)	4校(18.2%)				鳥取商業(専門) 鳥取工業(専門) 鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通) 倉吉総合産業(専門)
6学級	鳥取工業(専門) 鳥取湖陵(専門)	倉吉東(普通) 倉吉総合産業(専門)	境(普通) 境港総合技術(専門)	6校(27.3%)				境(普通) 米子工業(専門) 境港総合技術(専門)	8校(36.4%)
7学級				0校(0.0%)					0校(0.0%)
8学級	鳥取東(普通) 八頭(普通) 鳥取商業(専門)		米子東(普通) 米子西(普通)	6校(27.7%)				鳥取東(普通) 八頭(普通)	2校(9.1%)
9学級	鳥取西(普通)			1校(4.5%)				鳥取西(普通)	3校(13.6%)
合計	普通:4校 28学級 専門:4校 24学級 総合:1校 4学級	普通:3校 18学級 専門:2校 10学級	普通:3校 22学級 専門:3校 18学級 総合:2校 7学級	22校 128学級	合計	普通:4校 25学級 専門:4校 18学級 総合:1校 3学級	普通:3校 12学級 専門:2校 8学級	普通:3校 21学級 専門:3校 14学級 総合:2校 6学級	22校 107学級

※各年度第1学年の学級数

1校当たり平均5.8学級

1校当たり平均4.9学級

(図7) 県立全日制高等学校募集学級規模別学校数の比較



しかしながら、生徒の多様なニーズに応え、個々の能力を最大限に伸ばすための教育課程の編成や学校行事、部活動等における学校の活力維持を考えると、学校の規模は一定の範囲を標準とすることが望ましい。

【標準的な学校の規模】

- 従来どおり、1学年当たり4学級から8学級程度を標準的な学校規模とする。
- 各学校の規模は、標準的な学校規模をもとに、将来見込まれる各学校への入学者数、地域の産業や人口の状況等を考慮し、総合的に勘案しながら決定していく。

(2) 生徒数の減少への対応

<背景>

平成10年度から平成16年度の期間については、大幅な生徒減少期（中学校卒業生数が1,187人の減少）にあつて、県立高等学校の再編を実施するなど大規模な教育改革を行うとともに、標準的な学校規模を維持してきた。

また、平成17年度以降の生徒数の減少に対しては、平成16年度までに実施した一連の教育改革を定着させるべく、県立高等学校の再編は行わず、学級減で対応してきたところである。(図8参照)

(図8) 各計画期間における生徒減への対応 (県立全日制課程高等学校)

計画期間 対応	平成10年度 ～16年度	平成17年度 ～23年度	平成25年度 ～30年度	平成10年度 以降の総計
再編	6校の減 (28校→22校) [募集停止]11校 [新設]5校	(該当なし)	(該当なし)	6校の減
学級減	24学級の減 (上記の統廃合に 係るものも含む)	19学級の減	8学級の減 (予定)	51学級の減 (予定)
1学級当 たりの定員減	農業学科、水産学 科及び工業学科 38人 (昭和48年度～)	全ての専門学科、総 合学科及び職業系コ ース制を敷く普通学 科(岩美高校) 38人	(同左)	—

平成31年度から平成37年度の間中学校卒業予定者数は、367人減少することが見込まれているが、現在の学級規模（約40人）を固定し、私立高等学校の募集定員を勘案して試算すると、必要とされるのは全県でおよそ10学級規模の募集定員減であり、前述した県立高等学校再編時と比較しても、その減少数は小幅となっている。

**【生徒数の減少への対応】**

- 生徒数の減少に対しては、原則として学級減で対応する。
- 県全体の学科の配置状況等を考慮しながら、複数校を対象とした再編や学級定員減等による教育の質の向上についても検討する。

**ア 小規模校の在り方**

**<背景>**

小規模校については、生徒一人一人に対するきめ細かな指導や、地域と連携した特色ある教育活動等の展開など小規模校ならではの利点を生かすことで、生徒の豊かな人間性を養うことができる一方、生徒同士が切磋琢磨する機会や部活動、各種学校行事、教育課程の編成等において、制約が生じるという課題もある（図9参照）。

（図9）小規模校の利点及び課題

視 点	小規模校の利点（◎）及び課題（△）
多様な生徒とのふれあいにより切磋琢磨する機会	△集団の規模が小さいため、切磋琢磨する機会に限られる
生徒の学習ニーズに応える多様な柔軟な教育課程の編成	◎学校の教育課題にあった焦点を当てた教育課程が編成しやすい △標準的な規模の学校と比較して教育課程の編成が限定的となる
教職員の適正な配置による教育の専門性の確保及び生徒に与える影響	◎生徒数が少ないため、生徒個々に応じたきめ細かい指導が可能となり、生徒と教職員の相互理解が深まる △教員数が少ないため、進路希望等に適切に対応するための教科や科目の専門性の確保が困難
生徒会活動、部活動、学校行事	◎生徒一人一人に様々な役割が割り振られるため、生徒が活躍する場が多い ◎学校行事において地域との連携が図りやすい △生徒数が少ないため、生徒会活動や部活動について限定されることもある
施設・設備の効率的な活用	◎ある程度施設、設備に余裕がある
学校運営・校務分掌	◎教職員の相互連携が密となり、意思疎通が図りやすい △教員数が少ないため教員の負担が増加

今後、さらなる学級減を行うと学校の小規模化は一層進行することから、小規模校については、一定の基準を設け、その在り方を検討することが必要であるが、併行して、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの利点を生かした特色ある取組を推進させ、これを支援していくことが必要である。

#### 【小規模校の在り方】

●小規模校については、次の基準により分校化や再編等についても検討する。

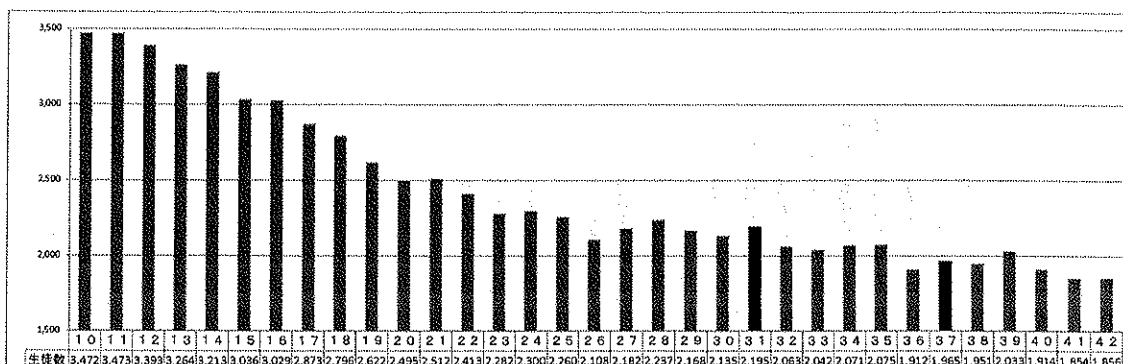
##### 《基準》

- ・ 1 学年当たり3学級の学校について  
入学者数が、2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。ただし、この基準の適用に当たっては、県全体の学科の配置状況等を考慮する。
  - ・ 1 学年当たり2学級以下の学校について  
入学者数が、2年連続して募集定員の2分の1に満たない場合は、特色ある取組の推進状況や通学等に係る地理的・経済的な家庭の負担等を踏まえ、分校化や再編、全国からの生徒募集など新たな特色の設定等を選択肢とし、3年程度を目途に当該学校の在り方を検討する。
  - ・ なお、人口減少社会の中で少子化対策や雇用の創出などに取り組んでいる本県の状況を踏まえ、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの特色ある取組を推進している学校については、その存続に最大限の努力を払う。
- 特色ある取組を推進している小規模校については、教育の質の維持・向上に向けた必要な措置（少人数授業の実施、外部人材の活用、遠隔授業の導入等）を講じる。

## イ 各地区の対応方針

### 東部地区

(児童生徒数(中学校卒業生数)の推移)



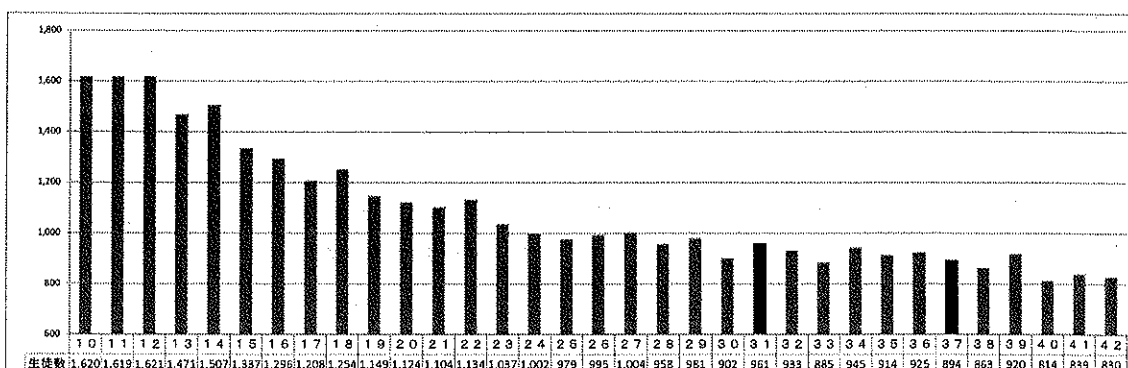
※平成28年度以降は推定値

#### 【東部地区の対応方針】

- 計画期間中の生徒数の減(230人)については、原則として学級減で対応する。
- 各学校の学級数については、生徒や保護者等のニーズ、中学校卒業見込者数、当該校への入学者数及び地域の産業の状況等を総合的に勘案して決定する。
- 他地区よりも小規模校が多いことから、前述の基準の内容を踏まえながら今後の各学校の在り方について検討する。

### 中部地区

(児童生徒数(中学校卒業生数)の推移)



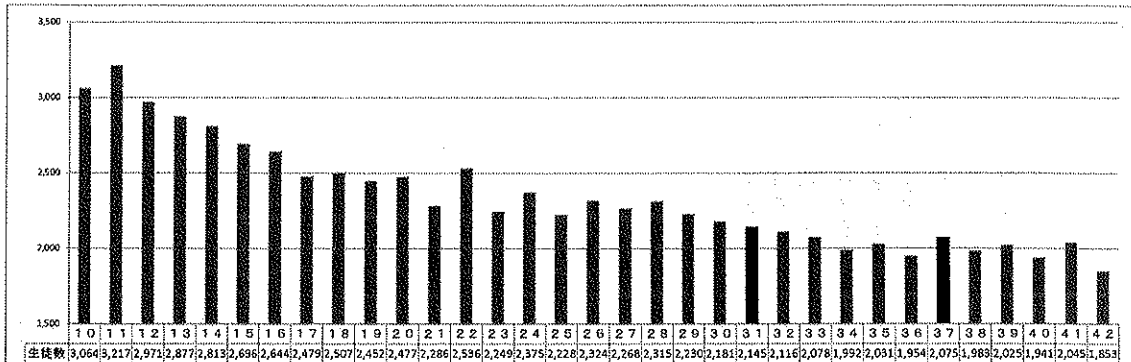
※平成28年度以降は推定値

#### 【中部地区の対応方針】

- 計画期間中の生徒数の減(67人)については、原則として学級減で対応する。
- 各学校の学級数については、生徒や保護者等のニーズ、中学校卒業見込者数、当該校への入学者数及び地域の産業の状況等を総合的に勘案して決定する。
- 他地区よりも普通学科の定員比率が高いこと、また各学校の規模が比較的小規模であることに鑑み、普通学科高校の教育的効果をより一層高めるための方策を検討する。

## 西部地区

(児童生徒数(中学校卒業生数)の推移)



※平成28年度以降は推定値

### 【西部地区の対応方針】

- 計画期間中の生徒数の減(70人)については、原則として学級減で対応する。
- 各学校の学級数については、生徒や保護者等のニーズ、中学校卒業見込者数、当該校への入学者数及び地域の産業の状況等を総合的に勘案して決定する。
- 水産学科、福祉学科など他地区にはない特色ある学科を有しており、生徒や地域のニーズ等を踏まえながら、今後の教育内容の充実について検討する。

## (3) 私立高等学校との連携と協力

### 【取組の方向性】

- 今後の生徒減少期において、教育の質の低下を招くことがないよう、県立高等学校及び私立高等学校が、学力向上施策や教職員研修などにおいて互いに連携・協力しながら本県教育の質の向上に努めていく。
- 県立高等学校と私立高等学校の募集定員は、従来から県立約80%、私立約20%の割合を維持してきたことから、今後の募集定員の在り方についても十分に意見交換を行っていく。



## 平成31年度以降の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）の概要

### 1 基本方針案策定の背景

平成31年度以降も中学校卒業生数の減少が見込まれており、学科やコース等の改編等を含めた学校の再編成を行うことも視野に入れながら学校の在り方を検討していく必要があります。

また、近年の高度情報化や国際化を背景に産業構造・就業構造の変化も加速してきており、グローバル社会に対応できる幅広い知識や柔軟な思考力及び創造性を持った人材を育成することが求められていることから、

- ・時代や社会の変化に柔軟に対応できる教育の推進
- ・今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

の2点を中心に、県立高等学校の在り方に関する基本方針を作成しました。

この基本方針は、平成31年度から平成37年度までの本県高校教育における基本的な考え方や施策展開の方向性を示したものであり、今後は本方針をもとに、関係者等の意見を聞きながら、施策を具体化・明確化し、その実現に向けて努めていきます。

### 2 基本方針案の概要

#### 第1章 時代や社会の変化に柔軟に対応できる高等学校教育の推進

##### 1 新たな学びに向けた取組

###### (1) これからの時代に求められる教育の推進

- 「21世紀型能力」を育むため、主体的・協働的な学習（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業への転換を目指して積極的な授業改革を推進していきます。
- 国内外の教育関係機関や企業等との連携により、グローバル社会で活躍できる人材の育成に取り組みます。
- 「鳥取県ICT教育活用ビジョン」における4つの方向性「学びの質を高める」、「教室環境の整備を目指す」、「多様な人材による多様な支援」、「県全体の情報基盤を整備する」に基づき、ICTを活用した教育を推進していきます。
- 多様な教育機会の確保や教育の質の向上を図っていくため、ICTを活用した遠隔教育の導入を検討します。

## (2) 共生社会の形成に向けた教育の推進

- 高等学校における課題の解決に向け、これまでの事業で培ったネットワークをもとに、効果的なチーム支援の展開を研究していきます。
- 生徒が自己理解・他者理解を深めることのできる取組を推進します。
- 一人一人の個性と能力を大切にする共生社会の形成に向けた教育を全校で展開していきます。

## 2 本県の地域や産業を支える人材の育成

### (1) 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実

- 自己の適性を理解して主体的に進路を選択する態度を育成していきます。
- 最前線で活躍している研究者・起業家や最先端の技術など「本物」に触れさせる教育を充実させます。
- 高い付加価値を生み出せる人材の育成に取り組みます。
- 生徒の発達段階に応じて、主権者としての判断能力を高めるための教育を推進していきます。
- 夢や希望に向かって果敢にチャレンジする生徒を育成していきます。

### (2) 地域と連携した教育の推進

- 地域の産業や文化についての学習や、地域の課題を題材とした学習等を積極的に取り入れ、「鳥取県を内外から支える人材」の育成に取り組みます。
- グローバル社会で活躍すると同時に、生まれ育った地域の中核としても活躍できる人材の育成に取り組みます。

## 第2章 今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

### 1 学校の特色や魅力づくり

#### (1) 生徒が自らデザインした学習を可能にする教育課程の在り方

- 多様な科目の選択が可能となる「単位制高校」への移行や、自校で学習できない内容を他校で学習するなどの学校間連携をより一層進めていきます。

## (2) 地域との連携等による学校の特色や魅力づくり

- 地域と学校が、目標を共有し、方向性を一にして取組を実行していきます。
- 地域と学校が相互の資源等を学校の教育活動の中で最大限に活用する方法を模索し、これを教育の中に位置付けるとともに、体系的・組織的な取組として展開していきます。
- 各学校の特色や魅力を明確にし、その一層の充実を図ります。
- 学校の特色や魅力に応じて、県外からも目標を持った生徒を受け入れる取組を推進します。

## 2 各課程・学科の在り方

### (1) 全日制課程普通学科

- キャリア教育を充実させ、将来への目的意識を持たせるとともに、社会や職業に対する意識を醸成する教育を実施していきます。
- 進学者の多い学校への単位制の導入など生徒自身の選択自由度を高め、生徒自らがデザインできる教育課程を編成できるよう工夫します。

### (2) 全日制課程専門学科

- 学校と産業界、行政機関等との連携を強化し、生徒に身につけさせた力を共有して産業界のニーズに応じた人材を育成します。
- 今後の産業構造等の変化を見据えながら、学科の改編や複数学科をくくったコース制の導入などについて検討します。

### (3) 全日制課程総合学科

- 生徒の進路希望をより一層明確にするためのガイダンス機能の充実や各系列の教育目標、育成すべき人材像を明確にした教育課程を編成します。
- 小規模校が多いことから、機動性を生かし、生徒が将来の夢に向かって主体的に学ぶ取組を教育課程の中に体系的に位置づけ、個々の生徒の進路実現につなげます。
- 多様な学びを提供するため、ICTを活用した遠隔教育の導入を検討します。

#### (4) 定時制・通信制課程

- 基礎・基本の定着や発展的学習の充実等を図るため、体験型学習の充実やICT機器等を取り入れた有効な学習モデルの構築について研究します。
- 多様な学習歴を持った生徒の学びの場として、昼間部・夜間部への入学状況等も考慮しながら今後の在り方について検討します。

### 3 標準的な学校の規模と配置

#### (1) 標準的な学校の規模

- 従来どおり、1学年当たり4学級から8学級程度を標準的な学校規模とします。
- 各学校の規模は、標準的な学校規模をもとに、将来見込まれる各学校への入学者数、地域の産業や人口の状況等を考慮し、総合的に勘案しながら決定します。

#### (2) 生徒数の減少への対応

- 生徒数の減少に対しては、原則として学級減で対応します。
- 県全体の学科の配置状況等を考慮しながら、複数校を対象とした再編や学級定員減等による教育の質の向上についても検討します。
- 1学年当たり3学級以下の小規模校については、一定の基準により分校化や再編等についても検討します。なお、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの特色ある取組を推進している学校については、その存続に最大限の努力を払います。
- 特色ある取組を推進している小規模校については、教育の質の維持・向上に向けた必要な措置（少人数授業の実施、外部人材の活用、遠隔授業の導入等）を講じます。

#### (3) 私立高等学校との連携と協力

- 今後の生徒減少期において、教育の質の低下を招くことがないように、県立高等学校及び私立高等学校が、学力向上施策や教職員研修などにおいて互いに連携・協力しながら本県教育の質の向上に努めます。
- 県立高等学校と私立高等学校の募集定員の在り方についても十分に意見交換を行っていきます。

#### 4 魅力と活力ある学校づくりを推進するための体制整備

- 教員とは異なる専門性や経験を有する人材の積極的な活用を進めます。
- 教員と教員以外の者がそれぞれ専門性を発揮しながら連携し、校長のリーダーシップの下、学校組織全体を一つのチーム（チーム学校）として効果的に機能させ、課題解決に取り組めます。
- 活用する外部人材に対し、研修を実施するなど学校の教育方針や教育内容の理解に資する取組を推進します。



郡市別児童生徒数の推移

平成27年5月1日現在

中学卒業年次 (現在の学年)	中学卒業者数										学校基本調査										推計														
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42		
全県	8,156	8,309	7,985	7,612	7,533	7,069	6,969	6,560	6,557	6,223	6,096	5,902	6,083	5,588	5,677	5,467	5,427	5,454	5,510	5,379	5,218	5,301	5,112	5,005	5,008	5,020	4,791	4,934	4,757	4,978	4,669	4,738	4,539		
(増減)	34	153△	324△	373△	79△	464△	106△	409△	3△	334△	127△	194△	181△	515△	109△	210△	40△	27	56△	131△	161△	83△	189△	107	3	12△	229	143△	137	181△	309	69△	199		
鳥取市	1,878	1,874	1,834	1,780	1,730	1,657	1,632	2,172	2,118	1,938	1,894	1,894	1,813	1,713	1,735	1,740	1,606	1,677	1,719	1,661	1,599	1,807	1,672	1,682	1,705	1,720	1,610	1,674	1,667	1,775	1,651	1,623	1,639		
岩手県	391	390	377	365	340	328	344	156	145	163	137	121	136	99	108	96	111	100	105	90	111	103	112	88	86	89	59	87	94	75	77	67	55		
八戸郡	734	750	696	687	686	608	610	390	379	362	309	343	314	318	303	271	238	251	260	232	252	208	205	210	211	199	175	204	190	183	186	164	162		
気高郡	319	299	329	278	301	289	286																												
鳥大附属中	150	160	157	154	156	154	157	155	154	159	155	154	150	152	154	153	154	154	153	135	140	77	74	62	69	67	68								
青森県																				50	33														
小計	3,472	3,473	3,383	3,264	3,213	3,036	3,029	2,873	2,796	2,622	2,495	2,512	2,413	2,282	2,300	2,260	2,108	2,182	2,237	2,168	2,135	2,195	2,063	2,042	2,071	2,075	1,912	1,965	1,951	2,033	1,914	1,854	1,856		
(増減)	120	1△	80△	129△	51△	177△	7△	156△	77△	174△	127△	17△	99△	131△	18△	40△	152△	74	55△	69△	33△	60△	132△	21△	29	4△	163	53△	14△	82△	119△	50△	2		
宮古市	645	663	637	554	610	520	546	530	558	520	485	487	504	488	437	433	441	444	435	410	389	409	438	404	442	425	443	389	404	442	368	400	382		
東田部	975	956	994	917	897	817	750	678	696	629	639	590	606	532	536	515	530	533	498	544	498	552	495	481	503	489	482	505	459	478	446	439	448		
湯梨井中																																			
小計	1,620	1,619	1,621	1,471	1,507	1,337	1,296	1,208	1,254	1,149	1,124	1,104	1,134	1,037	1,002	979	995	1,004	958	981	902	961	933	885	945	914	925	894	863	920	814	839	830		
(増減)	6△	1△	2△	150△	36△	170△	41△	88△	46△	105△	25△	20△	30△	97△	35△	23△	16	9	46△	23△	79△	59△	28△	48△	60△	31△	11△	31△	57△	106△	25△	9			
米子市	1,607	1,777	1,578	1,581	1,510	1,441	1,479	1,436	1,477	1,478	1,485	1,434	1,542	1,380	1,471	1,399	1,476	1,434	1,469	1,451	1,389	1,380	1,402	1,364	1,274	1,403	1,299	1,394	1,342	1,372	1,332	1,438	1,318		
境港市	461	471	480	411	421	398	364	410	377	376	402	355	386	333	360	330	349	340	330	315	309	285	292	291	283	272	301	292	290	288	291	268	257		
西白部	671	624	602	559	615	580	533	453	461	405	398	335	436	369	412	335	356	357	370	334	343	403	353	360	373	304	314	322	312	314	275	289	247		
白野郡	253	269	229	238	214	223	203	135	129	130	132	120	124	121	88	100	85	82	81	77	81	77	69	63	62	52	40	67	39	51	43	50	31		
北斗中	72	76	82	88	53	54	65	45	63	63	60	42	48	46	44	64	58	55	45	53	59														
小計	3,064	3,217	2,971	2,877	2,813	2,696	2,644	2,479	2,507	2,452	2,477	2,286	2,536	2,249	2,375	2,228	2,324	2,268	2,315	2,230	2,181	2,145	2,116	2,078	1,992	2,031	1,954	2,075	1,983	2,025	1,941	2,045	1,853		
(増減)	△ 92	153△	246△	94△	64△	117△	52△	165△	28△	55△	25△	191△	250△	287△	126△	147△	96△	56△	47△	85△	49△	35△	29△	38△	86△	39△	77△	121△	92△	42△	84△	104△	92△		

(注1) 平成27年以前は、3月中学卒業者数。

(注2) 平成28～30年は、平成26年5月1日現在の中学校在籍者数。英城郡中は米子市に含まれている。(特別支援学級生徒も含む)

(注3) 平成31～36年は、平成27年5月1日現在の小学校在籍者数。(特別支援学級生徒も含む)

(注4) 平成37年以降は、市町村の推計による。

(注5) 平成17年以降は、市町村合併後の新しい郡市のものである。



高等学校教育改革における県立高等学校の概要(平成24年度～)

【全日制課程】

学校名	平成24年度の状況		25年度	26年度	27年度	28年度	
	学科名	小学科・コース名				大学科	小学科・コース名
鳥取東	普通⑦ 理数①	普通⑦ 理数①		普通科⑥ 理数科①		普通⑥ 理数①	普通科⑥ 理数科①
鳥取西	普通⑧	普通⑧				普通⑦	普通科⑦
鳥取商業	商業⑤	商業⑤				商業⑤	商業科⑤
鳥取工業	工業④ 理数工学①	機械① 電気① 制御・情報① 建設工学① 理数工学①				工業④ 理数工学①	機械科① 電気科① 制御・情報科① 建設工学科① 理数工学科①
鳥取湖陵	農業② 工業① 家庭① 情報①	食品システム① 緑地デザイン① 電子機械① 人間環境① 情報科学①				農業② 工業① 家庭① 情報①	総合選択制 食品システム科① 緑地デザイン科① 電子機械科① 人間環境科① 情報科学科①
青谷		総合④		総合③			総合③
岩美	普通③	普通③				普通③	普通科③
八頭	普通⑦	探究文科コース① 探究理科コース① 総合コース④ 体育コース①				普通⑦	普通科⑦ [探究文科コース①、探究理科コース①、総合コース④、体育コース①]
智頭農林	農業③	園芸科学① 森林科学① 環境科学①				農業③	ふるさと創造科① 森林科学科① 生活環境科①
倉吉東	普通⑤	普通⑤				普通⑤	普通科⑤
倉吉西	普通④	普通④			普通③	普通③	単位制 普通科③
倉吉農業	農業③	生物① 食品① 環境①				農業③	生物科① 食品科① 環境科①
倉吉総合産業	工業② 商業① 家庭① 情報①	機械① 電気① ビジネス① 生活デザイン① 情報①				工業② 商業① 家庭①	総合選択制 機械科① 電気科① ビジネス科① 生活デザイン科① (情報学科募集停止)
鳥取中央育英	普通④	普通コース③ 体育コース①				普通④	単位制 普通科④ (普通コース③、体育コース①)
米子東	普通⑧	生命科学コース① 普通コース⑦				普通⑧	普通科⑧ (生命科学コース①、普通コース⑦)
米子西	普通⑧	普通⑧				普通⑧	普通科⑧
米子	普通⑧	総合④				普通⑧	普通科⑧ 総合④
米子南	商業② 家庭①	ビジネス情報③ 生活文化① 環境文化コース 調理コース				商業② 家庭①	ビジネス情報科③ 生活文化科① (環境文化コース・調理コース)
米子工業	工業⑤	機械① 電気① 情報電子① 都市環境① 建設コース 環境化学コース 建築①		機械科① 電気科① 情報電子科① 環境エネルギー科① 建設科① [土木、建築]		工業⑤	機械科① 電気科① 情報電子科① 環境エネルギー科① 建設科① (土木コース・建築コース)
境	普通⑥	普通⑥				普通⑥	単位制 普通科⑥
境港総合技術	水産② 工業② 福祉①	海洋① 食品・ビジネス① 機械① 電気電子① 福祉①				水産② 工業② 福祉①	総合選択制 海洋科① 食品・ビジネス科① 機械科① 電気電子科① 福祉科①
日野		総合③		総合②			総合②

【定時制課程・通信制課程】

鳥取緑風	定時制	総合(午前)① (午後)① (夜間)①				定時制	総合③ (午前①・午後①・夜間①)90人
	通信制	普通 約80人				通信制	普通科 約80人
倉吉東	定時制	普通(夜)①				定時制	普通(夜)40人
米子東	定時制	普通(夜)①				定時制	普通(夜)30人
米子白鳳	定時制	総合(午前)① (午後)①				定時制	総合② (午前①・午後①)60人
	通信制	普通 約80人				通信制	普通科 約80人

注) ○数字は1学年の学級数。アンダーラインは学級減。





県立高等学校(全日制)の生徒数一覧(平成27年5月1日)

(単位:人)

学校名	学科	定員			1年			2年			3年		
		1年	2年	3年	生徒数	過不足数	充足率	生徒数	過不足数	充足率	生徒数	過不足数	充足率
鳥取東	普通	240	240	280	240	0	100.0%	240	0	100.0%	279	△ 1	99.6%
	理数	40	40	40	41	1	102.5%	40	0	100.0%	38	△ 2	95.0%
鳥取西	普通	320	320	320	322	2	100.6%	315	△ 5	98.4%	315	△ 5	98.4%
鳥取商業	商業	190	190	190	174	△ 16	91.6%	164	△ 26	86.3%	189	△ 1	99.5%
鳥取工業	工業	152	152	152	146	△ 6	96.1%	114	△ 38	75.0%	146	△ 6	96.1%
	理数工学	38	38	38	30	△ 8	78.9%	35	△ 3	92.1%	36	△ 2	94.7%
鳥取湖陵	農業	76	76	76	71	△ 5	93.4%	74	△ 2	97.4%	74	△ 2	97.4%
	工業	38	38	38	26	△ 12	68.4%	38	0	100.0%	29	△ 9	76.3%
	家庭	38	38	38	34	△ 4	89.5%	39	1	102.6%	38	0	100.0%
	情報	38	38	38	33	△ 5	86.8%	39	1	102.6%	36	△ 2	94.7%
青谷	総合	114	114	152	76	△ 38	66.7%	89	△ 25	78.1%	87	△ 65	57.2%
岩美	普通	114	114	114	86	△ 28	75.4%	65	△ 49	57.0%	59	△ 55	51.8%
八頭	普通	280	280	280	274	△ 6	97.9%	278	△ 2	99.3%	269	△ 11	96.1%
智頭農林	農業	80	80	80	55	△ 25	68.8%	53	△ 27	66.3%	61	△ 19	76.3%
倉吉東	普通	200	200	200	205	5	102.5%	199	△ 1	99.5%	193	△ 7	96.5%
倉吉西	普通	120	160	160	123	3	102.5%	151	△ 9	94.4%	156	△ 4	97.5%
倉吉農業	農業	114	114	114	109	△ 5	95.6%	92	△ 22	80.7%	69	△ 45	60.5%
倉吉総合産業	工業	76	76	76	73	△ 3	96.1%	71	△ 5	93.4%	66	△ 10	86.8%
	商業	38	38	38	39	1	102.6%	34	△ 4	89.5%	37	△ 1	97.4%
	家庭	38	38	38	38	0	100.0%	38	0	100.0%	34	△ 4	89.5%
	情報	38	38	38	38	0	100.0%	37	△ 1	97.4%	33	△ 5	86.8%
鳥取中央育英	普通	160	160	160	134	△ 26	83.8%	156	△ 4	97.5%	124	△ 36	77.5%
米子東	普通	320	320	320	322	2	100.6%	319	△ 1	99.7%	318	△ 2	99.4%
米子西	普通	320	320	320	321	1	100.3%	318	△ 2	99.4%	320	0	100.0%
米子	総合	152	152	152	152	0	100.0%	147	△ 5	96.7%	147	△ 5	96.7%
米子南	商業	114	114	114	115	1	100.9%	110	△ 4	96.5%	110	△ 4	96.5%
	家庭	38	38	38	38	0	100.0%	38	0	100.0%	35	△ 3	92.1%
米子工業	工業	190	190	190	189	△ 1	99.5%	190	0	100.0%	169	△ 21	88.9%
境	普通	200	200	200	200	0	100.0%	200	0	100.0%	197	△ 3	98.5%
境港総合技術	水産	76	76	76	74	△ 2	97.4%	72	△ 4	94.7%	59	△ 17	77.6%
	工業	76	76	76	76	0	100.0%	73	△ 3	96.1%	70	△ 6	92.1%
	福祉	38	38	38	33	△ 5	86.8%	38	0	100.0%	36	△ 2	94.7%
日野	総合	76	76	114	55	△ 21	72.4%	60	△ 16	78.9%	53	△ 61	46.5%
学科別集計	普通	2,274	2,314	2,354	2,227	△ 47	97.9%	2,241	△ 73	96.8%	2,230	△ 124	94.7%
	農業	270	270	270	235	△ 35	87.0%	219	△ 51	81.1%	204	△ 66	75.6%
	水産	76	76	76	74	△ 2	97.4%	72	△ 4	94.7%	59	△ 17	77.6%
	工業	532	532	532	510	△ 22	95.9%	486	△ 46	91.4%	480	△ 52	90.2%
	商業	342	342	342	328	△ 14	95.9%	308	△ 34	90.1%	336	△ 6	98.2%
	家庭	114	114	114	110	△ 4	96.5%	115	1	100.9%	107	△ 7	93.9%
	福祉	38	38	38	33	△ 5	86.8%	38	0	100.0%	36	△ 2	94.7%
	情報	76	76	76	71	△ 5	93.4%	76	0	100.0%	69	△ 7	90.8%
	理数	40	40	40	41	1	102.5%	40	0	100.0%	38	△ 2	95.0%
	理数工学	38	38	38	30	△ 8	78.9%	35	△ 3	92.1%	36	△ 2	94.7%
	総合	342	342	418	283	△ 59	82.7%	296	△ 46	86.5%	287	△ 131	68.7%
	計	4,142	4,182	4,298	3,942	△ 200	95.2%	3,926	△ 256	93.9%	3,882	△ 416	90.3%

[学校便覧(H27.5.1)より]



# 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)[平成31年度～平成37年度]

について、ご意見をお寄せください。

応募期限 <必着>

2月4日(木)午後5時

鳥取県教育委員会では、平成31年度から平成37年度までの本県高校教育における基本的な考え方や施策展開の方向性を示した「基本方針」の策定作業を行っています。

そこで、検討中の内容について県民のみなさんから御意見をいただき、今後の取組に反映させていただきます。

## 今後の県立高等学校の在り方(検討している内容)

### 1 時代や社会の変化に柔軟に対応できる高等学校教育の推進

#### 新たな学びに向けた取組

- アクティブ・ラーニング(※)型授業への改革  
※学習者の能動的な授業への参加形態を取り入れた教授・学習法の総称
- グローバル社会で活躍できる人材の育成
- ICTを活用した教育の推進
- 共生社会の形成に向けた教育の推進 など



#### 本県の地域や産業を支える人材の育成

- キャリア教育の充実
- 主権者教育の推進
- 果敢にチャレンジする生徒の育成
- 「鳥取県を内外から支える人材」の育成 など

### 2 今後の生徒減少期に対応した魅力と活力にあふれる高等学校づくり

#### 学校の特色や魅力づくり

- 生徒が自らデザインした学習の実現
- 地域との連携等による学校の特色や魅力づくり
- 各学校の特色や魅力の充実
- 目的意識の明確な県外生徒の受け入れ など

#### 標準的な学校の規模と配置

- 標準的な学校規模は1学年当たり4学級から8学級程度
- 生徒数減少には、原則として学級減で対応
- 一定の基準により小規模校の在り方を検討
- 特色ある取組を推進する学校の存続に最大限努力 など

#### 各学科等の在り方

- キャリア教育の充実、生徒自らがデザインできる教育課程の編成(普通学科)
- 産業界のニーズに応じた人材の育成、産業構造等の変化を見据えた編成(専門学科)
- ガイダンス機能の充実、各系列の教育目的・育成すべき人材像の明確化(総合学科) など

#### 魅力と活力ある高等学校づくりを推進するための体制整備

- 専門性や経験を有する人材の積極的な活用
- 学校組織全体のチーム化促進
- 外部人材に対する研修の充実 など

## ご意見の提出方法

次のいずれかの方法でお寄せください。様式は自由です。

(このチラシの裏面もご利用になれます)

- 郵送：〒680-8570(郵便番号のみで届きます)
- ファクシミリ：0857-26-0408
- メールフォーム：高等学校課ホームページからご意見の直接入力・送信が可能です。
- 電子メール：[koutougakkou@pref.tottori.jp](mailto:koutougakkou@pref.tottori.jp)
- 意見箱への投函：県庁県民課、総合事務所地域振興局、日野振興センター日野振興局、東部・八頭庁舎及び県立図書館に設置しています。

## 意見募集のホームページ(HP)

<http://www.pref.tottori.lg.jp/252509.htm>

※HPのほか各市町村役場、左記の県の機関にも資料を設置しています。

## お問合せ先

県教育委員会事務局高等学校課  
電話：0857-26-7517  
ファクシミリ：0857-26-0408



「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)[平成31年度～平成37年度]」への意見募集 応募用紙

《応募先》

鳥取県教育委員会事務局高等学校課 行  
 (ファクシミリ番号：0857-26-0408)

※ファクシミリで応募される場合は、このまま鳥取県教育委員会事務局高等学校課まで、電子メールの場合は、koutougakkou@pref.tottori.jp へてにお送りください。

ご意見記載欄

Large area for writing opinions, featuring horizontal dashed lines for text entry.

ご意見ありがとうございました。

差し支えなければ、下記にもご記入ください。

お住まいの市町村	鳥取県	市・郡	町(以下、不要)
年代	<input type="checkbox"/> 10歳代	<input type="checkbox"/> 20歳代	<input type="checkbox"/> 30歳代
	<input type="checkbox"/> 40歳代	<input type="checkbox"/> 50歳代	<input type="checkbox"/> 60歳代
性別	<input type="checkbox"/> 70歳代	<input type="checkbox"/> 80歳代以上	
	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性	